

第 38 回福島問題研究会議事録（ダイジェスト版）

1. 日時 31年2月4日(月) 14:30-17:00
2. 場所 化学工学会 応接室
3. 出席者 小林、鈴木、横堀、中尾、橋本、松井、伊達、松田（記録）
4. 議事内容
 - 4.1 前回（第 37 回）議事録の確認
前回議事録を確認した。
 - 4.2 連絡事項・入手情報
 - (1) 「特殊環境下の腐食現象の解明に関する分科会」の第 3 回会議（2019. 1. 15）の概要が説明された。本分科会は、6 つの分科会の中では最も活発に活動が続けられていると目されている。今回は、今後検討すべき腐食に関する課題を討議し、12 の具体的な研究課題（腐食に対する放射性物質の影響、MIC、外面腐食、流体腐食、等）を選定、各委員の評定をもとに重点順位付けし、来年度以降の公募、委託研究化に備えることとした。
以上に対する意見として、上位事項（どういう方法でデブリ取出しを進めるのか、等）が決まらない中で優先順位を付け、進めるのか疑問。対策として、ステアリングコミッティーで管理することが重要で、化学工学分野（SCE-Net）もその中に入り込むのが理想、などの意見が出された。
 - (2) 研究開発連携会議(2018/12/21)
廃炉計画, CLAD 研究推進, 30-40 年の工程表に対し、目標設定が不明確との意見あり。
 - (3) KISTEC 教育講座「廃炉の途上で」（IRID のメールマガジンにも案内あり）
 - 1) 3/13、13-17:00 神奈川サイエンスパーク
 - 2) 人気あり早めに申し込む方が良い。
 - 3) 震災直後のマネージメント, 1F 廃炉状況、ロボット, 現在および今後
 - (4) 2F 見学
 - 4.3 俯瞰図議論（Step1 について）
 - (1) マップの整理 1,（俯瞰マップ詳論資料説明・議論）
 - 1) マップの第一段階「汚染源を閉じ込め、一時保管」だけを考えても、一定期間後に除染設備そのものや汚染水タンクが固体廃棄物となり、これらを含めた第一段階のみの最終処分も必要になる。このように考えると、鈴木先生の言われる「エンドステートからの検討」の重要性が浮かび出る。各ステップ事の除染過程、除染後の廃棄物各種に対する対策の定量化が必須となる。
 - 2) トリチウム水の処理は大気放出については流出被害に関わる関係者が多いので、対象者の少ない海洋投棄の方が合理的と考えているようだ。
 - 3) 伐採木の議論は on-site と off-site に分ける必要あり（製材所の廃棄物は Off-Site）
 - 4) 廃棄物（廃吸着材、装置、等々の）の発生量の詳細は, Google の「福島吸着塔保管管理状況」等キーワードで検索すると詳細データがみられる。
 - 5) Step1 についても、それぞれの処理の最終の姿を示し、それから逆算する形で施策と期限絞り込んでいくことが必要。最終的には廃棄物の最終処分は六ヶ所村再処理設備のイメージが参考になる。

俯瞰図の説明に対して以下の自由意見

- 1) 空冷は何故進まないのか
- 2) ジオポリマーの目的は“止水”なのか、“飛散デブリの取り扱い性改善”なのか？
- 3) 地下水の建屋への流入を抑えることでデブリ処理は大きく前進するのでは？
- 4) 地下水由来の汚染水発生量をどこまで減らすと意味があるのか？
- 5) 1F 周辺で硫化水素発生が問題になるとすれば、ベントガスに含まれる硫化水素であり、ヨウ素除去触媒の被毒になることが問題であり、これの出所は電線の被覆樹脂の可塑剤からの可能性がある。

(2)化学工学会 年会シンポ対応 (3/15 9:30-11:00)
企画調整中。

4.4 次回

日時：3月5日（火曜）14:30 ～

場所：化学工学会会議室の予定（変更時は連絡）

以上